



フードバンク関西ニュース

2010年1月20日 第18号

2010年1月20日発行
NPO法人フードバンク関西
事務所 芦屋市呉川町1-15
Tel/Fax 0797-34-8330
E-mail foodbank05@yahoo.co.jp

フードバンク関西は食品関連企業から余剰食品を

受け取り、支援を必要とする人達を支える非営利団体にそれらが無償提供する活動をしています。

2010年を迎えて

理事長 藤田 治

2010年が幕を明けましたが、混沌とした幕が開き拍手も無い舞台に役者さんたちが立っている様な気がします。失業者が前年にも増し、経済と言えば安売りが基本となり、上を向くような気配は今のところ感じられません。若干明るいと思えるのは株価の上昇くらいのものでしょうか。



フードバンク関西はこのような状況の中、ご協力いただいております全ての関係者の皆様に対し感謝と御礼を申し上げます。今年度はフードバンク活動の認知度をもっと上げると共に、多方面により行き届いた活動の展開を重点目標と考えております。食品をご提供下さる企業の方々、そして提供された食品を受け取って有効活用して下さるの方々、それらを届ける活動をして下さっているボランティアスタッフの方々、本年もどうぞよろしく願いいたします。

フードバンク関西が「共生優秀賞」に選ばれました



浄土宗が宗祖法然上人 800 年大遠忌記念事業として平成 19 年に創立した「共生・地域文化大賞」の第2次選考が昨秋 10 月 26 日に総本山知恩院にて行われました。選考の結果、「共生・地域文化大賞」は「NPO 法人北九州ホームレス支援機構」に、「共生優秀賞」には 3 団体「NPO 法人 JHP ・学校を作る会（東京都）」「NPO 法人デイサービスこのゆびとーまれ（富山県）」「NPO 法人フードバンク関西」が選ばれ、副賞として奨励金 50 万円を頂きました。

理事長藤田の受賞の感想

知恩院という壮大な場所で、普段お目にかかることの出来ない門主様のお話もお聞きできて感激。活動奨励金をいただけたことも嬉しいが、そうした滅多にない機会を与えて頂き感謝しています。

ラッフルキルトの結果報告

前回のニュースでもご紹介いたしましたが、大阪米国総領事夫人のリンダ・ナカムラさんとそのお友達が制作して下さったタペストリーキルトを特賞とするキルトラッフルが、協賛して下さった企業からの賞品がたくさん加わり、大成功の内に終了する事が出来ました。抽選会は12月1日神



戸クラブで神戸ウィメンズクラブの昼食会で開催されました。ラッフルの発券数は2000枚、特賞を含め賞品の当選者は44人、特賞のキルトは芦屋市在住のIさんに贈られました。抽選の結果



はフードバンク関西のホームページに即日発表し、すべての受賞者に10日以内に賞品の発送を完了いたしました。ラッフルキルト実行グループの皆様からフードバンク関西にラッフルの売上額全額に当たる33万6800円を寄付していただきました。このお金は、フードバンク関西の本年度の活動運営費として、大切に活用させていただきます。このイベントのために、キルト制作に長時間を費やして下さったリンダさん、エヴェリンさん、セレス

テさん、この企画を成功させるために大活躍して下さいました実行グループの皆様、ラッフルを購入して下さいました多くの皆様、協賛して下さいました企業の皆様に心より御礼申し上げます。

平成20年度通常総会が開催されました。

昨年10月18日、フードバンク関西芦屋事務所において、役員、正会員委任状出席9名を含め全員出席のもと、平成20年度通常総会が開催されました。大変遅くなりましたが、その席で承認されました平成20年度事業報告と平成21年度事業計画の骨子、決算報告を下記に掲載いたします。

平成20年度事業報告 (平成20年9月1日から平成21年8月31日まで)

(1) 事業活動の状況 フードバンク関西は、平成21年8月31日をもって第6期会計年度を終了する事が出来ました。当年度、2月15日に臨時総会を開催し、役員の方定員枠の拡大や、会員等に係る条項について定款変更を決議し、7月に兵庫県から定款変更の認証を得、新たな態勢を整え、事業の発展に備えました。また、6月には木口ひょうご地域振興財団の支援を得て、業務用大型冷蔵庫および冷凍庫を尼崎から芦屋に移設し、尼崎倉庫の閉所と食品管理の芦屋事務所一元化を実現しました。

I 余剰食品の回収と福祉団体への無償分配事業について 当期、フードバンク関西は新たに8社と食品の引き取りについて確認書の交換を行い、本年度末時点で12社から定期的に、8社から不定期に余剰食品の無償提供を受けています。本年度1年間の取り扱い食品量は97.2トンとなりました。日頃取り扱う食品は、量だけでなく品質も向上し、この事業の趣旨が企業の皆さんに浸透し、理解され始めた事を実感した1年間でした。食品を有効に活用して下さいる福祉団体の数は、年度初めは37団体でしたが年度末には60団体に増加し、地域も京都府から姫路市までと広域に広がりました。また、10月から製菓材料を取り扱う企業から製菓用チョコレート等製菓材料を受け取るようになり、定例の食品の分配ルートとは別に、兵庫県内および大阪市内、大阪府下のお菓子やパン作りを生業とする障害者通所作業所に受け取り希望を取り、9月と3月の2回、希望リストに合わせた製菓材料を分配する事が出来ました。3月から珈琲豆の提供が始まり、提供者の了解を得て福祉施設内で利用者が飲むだけでなく作業所が運営する喫茶等でも活用できる事になり、障害者の仕事の創出にも一役買う事が出来ました。1月以降の日本の経済状況の悪化は、フードバンク関西には大規模量販店からの米の提供量が激減するという形で影響を及ぼしました。福祉団体には原則として毎月30キロずつ分配することができていましたが、2月以降提供量を20キロ以下にし、月末在庫がなくなり翌月の分配を中止した事が2回ありました。2004年3月から奇数月にカルフル尼崎店の1階モール通路で開催してきた身障者作業所生産品バザーは2008年12月7日のバザーを最終回として以後休止としました。

II この事業への評価について 本年度1月に木口ひょうご地域振興財団平成21年度上半期助成事業の公募に荷捌場の屋根敷設のための工事費の助成金申請をしたところ、申請額とおりの助成金を受領する事が叶いました。早速工事を行い6月中に完了しました。現在は屋根付きの荷捌場に尼崎から移設した業務用大型冷蔵庫が置かれ、食品管理の一元化により入出庫管理、安全管理の徹底、作業の効率向上等、今まで抱えていた問題の解決が図れました。木口ひょうご地域振興財団には、当法人の活動趣旨を深くご理解していただいた事を深く感謝しています。

1月には、マックスバリュ西日本が全店舗で1ヶ月間レジ横に置いた寄附金箱でのフードバンク関西活動支援募金をして下さり、2月に71万円の寄附金の贈呈がありました。お釣りの小銭をこの寄附箱に投函して下さったたくさんの方々の善意に感謝しています。3月、NPO法人パブリックリソースセンターが主催するインターネット寄附サイトGIVEONEへの加入勧誘を受け、一連の手続きを経て6月からそのサイトにフードバンク関西への寄附窓口が出来ました。その結果6月以降クレジットカードやジャパネット銀行振込を利用した全国からの寄附が寄せられるようになりました。報道機関の取材は、地域のコミュニティ誌も含めて数回あり、テレビの報道番組中の報道特集としては4月に関西テレビ、5月に読売放送テレビで夕方の報道番組中の特集として取り上げられ、活動紹介がなされました。

Ⅲ ふれあい工房悠について 毎土曜日に事務所で行う「ふれあい工房悠」では、余剰食品を食材としたランチの試食会を本年度も継続しました。

Ⅳ フードバンク関西が抱える問題点 本年度になって、今までになかった広がりを持って、たくさんの方々の支援を得る事が出来ました。ただし、増加する運営費をどのようにして継続確保するかは、本年度中に具体的な解決の糸口が見つけられなかった事は残念です。農林水産省がフードバンク活動への調査費を予算化した事を筆頭に、食品ロスに対する対策を行政が本腰を入れて解決しようという機運があり、8月に農林水産省から委託を受けた三菱総合研究所の聞き取り調査等がありました。フードバンク関西は、余剰食品を抱える企業と生活弱者を支えるため必死の努力をする福祉団体のつなぎ手として、「金銭が介在しない生活弱者のための余剰食品再分配の新たな流通システム」の実質作業を担い、その必要性と公益性を証明しつつあると自認しています。フードバンク関西に関わって下さる皆様のさらなるご理解とご助言、ご支援をお願い申し上げます。

平成21年度事業計画 (平成21年9月1日から平成22年8月31日まで)

Ⅰ 余剰食品の回収と福祉団体への無償分配事業について フードバンク関西は、本年度も食品関連企業から余剰食品を回収し、生活弱者の自立を支援する社会福祉施設や福祉団体にこれら食品等を無償で分配する事業を継続し、さらに発展させます。また、今後さらに増加すると予測される受け取り団体に、適切な量の食品を届ける事が出来るよう、新しい食品提供企業の開拓にも努力を払います。また本年度からの新しい取り組みとして、福祉団体の支援ネットワークから漏れている個人の生活困窮者に対して、地域の行政と協働し生活相談員や民生委員を通じて、緊急支援用の食品の分配を開始したいと考えます。今日の食糧にも事欠き、将来への絶望的な思いを抱く人達へ、緊急のセーフティネットとなる事が出来るはずです。まず本年度は地元の芦屋市への働きかけを開始します。ボランティアの皆さんには、働きやすく過度の負担にならず、やりがいを実感できる環境を整え、さらなる増員を図ります。

Ⅱ 「ふれあい工房悠」について 本年度は、開催頻度を月1回第2土曜日に限定し、見学や取材はその日に集約して運営の効率化を図ります。

Ⅲ インターネットによる広報活動について インターネットが情報収集手段として不可欠な現在、フードバンク関西のホームページの持つ意味が大きくなってきました。本年度は、更新の頻度を上げ、生き生きとした活動報告やボランティアのコメントなどを盛り込んで、活気あるホームページ作りに力を入れます。

Ⅳ 問題点の解決への方法 「運営資金の継続的安定確保の手段を確立する」という重要課題に、本年度も真剣に可能性を探り、具体的な取り組みを開始できるよう最善を尽くします。

平成20年度会計収支決算報告

収入	会費	1,776,345円	支出	事業費	2,394,083円
	寄附・募金	1,880,623円		管理費	430,035円
	民間助成金	1,030,000円		固定資産取得	700,000円(屋根敷設工事)
	雑収入	211,191円		支出合計	3,524,118円
	収入合計	4,898,159円		収支差額	1,374,041円

平成20年度（20年9月～21年8月）フードバンク関西を支援下さった皆様

（今回平成20年度から個人、法人名のご披露は控えさせていただきます。企業名はホームページをご参照ください。）

食品のご提供量 97.2トン（企業25社と個人136件）

正会員（22人と1法人）、賛助会員（127人と67法人）、会費合計額1,776,345円

寄附をお寄せ下さった皆様（45名と48団体） 寄附合計額1,489,366円

募金（ふれあい工房カンパ・その他） 募金合計額 391,257円

フードバンク関西は、平成20年度中たくさんの企業、団体、個人の皆様からのご支援をうけて活動を継続出来ました。ご支援下さったすべての皆様に心より御礼を申し上げます。この事業から益が生じず、皆様からのご理解とご協力によって私達はこの事業を行う事が出来ます。今後ともフードバンク関西の活動が長期的に継続できますよう、ご支援をよろしくお願いします。皆様のご支援と喜んで下さるすべての人達の笑顔が私達ボランティアの活動エネルギーの源です。

新しい食品提供企業のご紹介

カルゲン製薬株式会社

紙パック入りのカルシウム健康飲料2種類をご提供いただきました。

子供達の施設や医療施設にもお届けして好評でした。

神戸発だいすや（株式会社イーアンドイー）

毎土曜日、国産大豆パウダーを原料にしたお豆腐をご提供いただいています。

大豆の栄養を丸ごと閉じ込めた栄養豊かなお豆腐です。

月桂冠株式会社

甘酒缶30本入り546ケースご寄贈いただきました。

生姜が利いて酒粕の香りの濃い味で、寒い時には体が温まる何よりの飲み物です。

トーラク株式会社

12月にゼリー等のお菓子類を2回に分けてご寄贈いただきました。甘いお菓子類のご提供が減少していたので嬉しいご参加です。今後も随時ご提供いただける事になっています。

株式会社ウーケ

電子レンジで2分、すぐ食べられるパック入りご飯を720パックご寄贈いただきました。これで入手が困難になっているお米の代わりにご飯を提供できます。



余った食べ物を預かって、必要なところに届けます。

特定非営利活動法人フードバンク関西

事務所 〒659-0051 芦屋市呉川町1-15 TEL0797-34-8330

e-mail foodbank05@yahoo.co.jp URL <http://foodbankkansai.web.infoseek.co.jp>

郵便振替口座 00940-4-221867